

# Cool Gunma の授業で英語苦手感をなくす

関口 桜子

平成 25 年 12 月 13 日、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が文部科学省より公表された。この計画は、初等中等教育段階からのグローバル化に対応した教育環境作ると共に、小中高等学校を通じた英語教育改革を計画的に進めるためのこれからの英語教育の新しい指針である。2020 年には、日本でオリンピックが開催されることもあり、今後ますます日本における英語教育が注目されることになるだろう。私自身、英語が大好きで、大学において英語を専攻している。しかし残念なことに、群馬県の中学校での公開研究会への参加や教育実習での経験から、英語を苦手と感じている子どもが多いということを実感した。そこで、私は英語が好きではない子どもたちの実態を明らかにし、苦手意識を軽減させる Cool Gunma の楽しい授業について考えていきたい。

## 1. 英語の学習をもっと楽しくしたい

### (1)中学生の英語学習に関する実態

Benesse 教育開発センターが全国の中学 2 年生 2967 名を対象に 2009 年 1～2 月に実施した中学校英語に関する基本調査において注目すべき点が 4 点あった。まず 1 点目は、英語を苦手と感じている中学生が約 6 割存在し、そのうち 8 割弱が「中 1 の後半」までに英語を「苦手」と感じているということである。2 点目は、英語学習でつまずきやすいポイントの項目において「文法が難しい」と感じている中学生が約 8 割を占めていることである。3 点目は、英語に対し最もやる気が高い時期は「中 1 の初め頃」と回答した生徒が約 4 割を占めており、それ以降はやる気が低下傾向にあることである。最後に、英語が苦手な生徒の英語の学習動機として「中学生のうちは勉強しないといけないから」が約 8 割を占め、「英語が好きだから」「英語の授業が面白いから」という回答は 2 割に満たないという結果が出たということである。以上のことから、私は、英語の授業において文法を教えることに重点を置きすぎて、英語を使うこと本来の楽しさを生徒たちに授業内で実感させる機会が不足しているということが、生徒のやる気を削ぎ、英語が苦手という意識を生み出すことにつながっているのではないかと考えた。

### (2)英語を使う楽しさとは何か?～短期留学を通して感じたこと～

私は、昨年の2月の後半から1か月間アメリカのサンディエゴで短期留学をし、ホームステイを経験した。中学3年次にも群馬県主催の海外派遣事業に参加したことがあるため、ホームステイは2回目である。初めてのホームステイの際には、ホストファミリーと話をしたいけれど上手く英語で自分の気持ちを表現することができず、言い残したこと、やり残したことがたくさんあった。大変さみしく、悔しい思いをしたことを今でも覚えている。そのときに感じた悔しさが、私自身の英語学習へのモチベーションにつながったのではないかと感じている。そして、昨年のホームステイでは、ホストファミリーや現地の同級生に積極的に英語で話しかけるように心がけた。その結果、アメリカにてたくさんの友達をつくることができ、ホストマザーとは毎日1時間以上、群馬県のことやその日に学校で起こったことを楽しく会話することができた。現地で自分の英語をほめてもらったり、自分の英語が伝わったということを実感したりすることを通して私はますます英語を好きになることができた。将来、ホストファミリーに群馬県内を案内するという約束も交わした。このような「英語を話したい！使いたい！と思うきっかけ」や「自分の英語が相手に伝わる喜びを感じることは、私だけではなく、子どもたちにとっても「英語に興味を持つ」、「英語が好きになる」きっかけになるのではないだろうか。

## 2. 英語苦手感の問題を解決するための私の授業案

### (1)伝えたい気持ちを育み、話す機会を確保する授業

コミュニケーションの基盤には、「聞くこと」と「話すこと」が存在する。聞き手にとっても話し手にとっても魅力的な話をするためには、教師による話題提示が大きなカギとなる。これは、英語だけではなくすべての言語において共通することだろう。子どもたちの意欲を高めるためには、より身近で興味関心に沿った話題を選択することが必要だ。日本人が海外で出会った人との初対面の時の会話は「お互いが住んでいる国」や「自分が住んでいる地域」についての話題がほとんどである。私はこのことを海外旅行やホームステイ経験から実感してきた。自分が生まれ育った地域の自然や名産、名所や伝統文化については世界共通でお互いにとって最も話しやすい話題であるのかもしれない。したがって、ふるさと(Gunma)を英語の教材として取り入れていくことは、親しみやすい英語の授業づくりのヒントになるはずだ。以上のことを踏まえ、魅力的な話題作りとして以下の二点を提案したい。

#### ①インターネットの活用～情報をどんどん活用しよう～

自分の好きなものを友達に紹介したり、道案内や買い物をしたりするというアクティビテ

ィは英語の授業の題材として頻繁に利用される。そこで、インターネットを用いて自分の好きなものを英語のホームページを使って調べる活動や、海外の路線図やメニューを印刷して現物を用いた活動を取り入れることで、日本にいながら英語に囲まれた環境の中での英語の使用を可能にし、子どもたちの意欲を高めることができるのではないか。

また、ぐんまちゃんナビ！という群馬県の魅力発信サイトでは私たちが住んでいる群馬県についてあらゆる視点から情報を得ることができる。基本的に、中学レベルの英語に変換しやすい日本語で構成されているため、ホームページで得た情報を英語にして友達とクイズを出し合うという活動が考えられる。この活動は、興味関心を高めるだけでなく、ふるさと(Gunma)の魅力を再認識することにもつながるはずだ。また、英語版のページをリーディング教材として取り扱うことも考えられる。私たちが住む群馬県というなじみ深いテーマであるため、自分たちが持っている知識や経験を最大限に生かして自分の力で英語を読むことが可能になるに違いない。そして、「自分で英語を読めた！」という成功体験が英語学習のモチベーションの向上につながるだろう。

## ②COOL JAPAN!～ぐんまちゃんを活用しよう～

海外から、日本独自の文化が **COOL JAPAN** と評されている。ゆるキャラも誇りを持てる日本文化の1つといえるだろう。今年、ゆるキャラグランプリ 2014 において「ぐんまちゃん」が首位を快走していることもあり、中学生にとっても親しみをもてるキャラクターとして英語の授業においても活用することができるはずだ。実は、世界においてもゆるキャラは、存在している。例えば、アメリカ大使館公認の豆夢(トム)くんやタイの観光局のハッピーちゃんなどである。ぐんまちゃんになりきって、世界のゆるキャラに e-mail を送ったり、群馬県を紹介する VTR を作ったりとゆるキャラという現代的な新しい文化を活用することで、子どもたちが楽しみながら英語の使用を図ることができるだろう。

## (2)楽しく学びながら、基礎学力を身につける授業

これまでに述べてきたように、子どもたちの興味関心を高める話題を選択し、十分に英語を使う時間を確保することは必要不可欠である。もう1つ忘れてはいけないことは、英語のつまずきの大きな原因としても挙げられた「文法の難しさ」をいかに軽減させるかである。子どもたちに英語を使用するための語彙や文法を習得させることは避けられない。基礎的な単語や文法が不足していると自分の伝えたいことを表現する術を見つけることが

十分にできないからである。これらの学習も、方法さえ工夫すればきっと楽しく学習できるにちがいない。

### 1.語彙力を増やすには

私自身、語彙を覚えることには、今でも抵抗がある。特に、中学高校時代の単語テストのための勉強は非常に苦痛だった。いくら勉強してもテストになるとすっかり忘れてしまうことがしばしばあった。しかし、不思議なことに自分の書きたいことを書くために調べた単語は、今でもはっきり覚えている。語彙においても、自分で調べたいという気持ちから学習したものは過度に練習をせずに定着を図ることができると考えられる。そこで、授業においても常に辞書を使うことを習慣づけることが有効なのではないか。先程述べた、ぐんまちゃんナビ！の英語版のリーディング活動の際も積極的に辞書を活用させ、自分の力で読むという体験をさせたい。

### 2.各学年に応じた英語力と考えられる活動例

私は、大学の授業において中学校で扱う文法事項を1つずつまとめ、文法事項に当てはまるオリジナルの例文や活動を考えるという課題をこなしてきた。振り返ってみると、群馬県の自然、産業、名産、ゆかりの人物等を題材として利用すれば、中学におけるほとんどの文法事項を網羅することが可能であるということに気が付いた。教科書と並行してCool Gunmaの教材を作成し、導入することで子どもたちは英語をより身近なものとしてとらえられるだろう。ここからは各学年で考えられる例文と活動のアイデアを1つずつ述べていくことにする。例えば、中学1年次の学習事項を用いて『ふるさと(Gunma)の魅力を紹介するパンフレット』が考えられる。“Hello, everyone! I am Ken. I live in Gunma. Gunma is a good place! You can go to Kusatsu hot spring. I went there last month. I ate Onsenmanjyu there. It was delicious! Let’s go to Kusatsu hot spring with me!”のように自作のパンフレットを用いて、ふるさと(Gunma)のお気に入りの場所やものについて書き、紹介することができる。つづいて中学2年次には、『私たちの英語上毛かるた』が考えられる。比較の表現を用いた“The tone, the largest river in the Kanto Region.”(利根は坂東一の川)という既存のものや“Gunma-chan is loved by many people.”(みんなに愛されぐんまちゃん)のようなオリジナルなカルタを作って実際に遊びながら語彙や文法を身につけることが可能である。最後に中学3年次には、『ふるさと(Gunma)紹介CM』が考えられる。これまでの既習事項もフルに活用して、自分たちの経験も踏まえて英語で群馬県のCMをつくるという

活動だ。“We will introduce our Gunma prefecture! Gunma has three wonderful points! First, there is rich nature! We have been to Mt. Akagi six times! You can paddle a canoe there. Second, you can get *Gunma-chan* goods! At the Takasaki station, there is a big shop. A lot of *Gunma-chan* goods are sold there...” このように中学英語の集大成として長い紹介文を作成し、練習をして CM づくりを通して「英語が使えた！」という達成感を味わわせることができるだろう。このようにふるさと(Gunma)という大きな題材を用いて、子どもたちが自ら考え、持っている知識と辞書を活用して自分の伝えたいことを表現する活動を英語の授業において組み込んでいくことで、英語を使いながら語彙や文法を自然に定着させることができるのではないだろうか。Cool Gunma の授業は、子どもたちの苦手意識を軽減させると同時に「英語で文を書いてみたい!」「英語で自分の気持ちを伝えてみたい!」という意欲をひきだし、現代の子どもが抱える英語学習への抵抗感を払拭することに一役買うと私は考える。

### 3. まとめ

ぐんまちゃんの活躍や、富岡製糸場の世界遺産登録、2015 年の大河ドラマ「花燃ゆ」など、近年群馬県が日本において、世界において注目されるようになってきた。上毛かるたや焼きまんじゅうなど、群馬県にはまだまだ世界に知られざる誇るべき文化がたくさん存在する。英語の授業において「Cool Gunma の活動を取り入れていく」ことは、英語や郷土への興味関心につなげることができる。そして、私たち群馬県民が群馬の魅力を英語で表現できるようになることで、将来的にふるさと(Gunma)の良さを 1 人ひとりが世界に発信できるようになるのではないだろうか。私は、将来英語教師として群馬県の魅力たっぷりの楽しい授業を展開し世界で活躍できる力を持つ子どもたちを育てていきたい。

<参考文献>

Bennese 教育研究開発センター『第 1 回中学校英語に関する基本調査〔生徒調査〕中学生の英語学習に対する意義と実態』

調査時期：2009 年 1 月～2 月                      調査対象：全国の中学 2 年生 2967 名(有効回答数)

(抽出方法)市町村の人口規模及び人口密度を考慮した有意抽出方法

ぐんまちゃんナビ! : <http://www.gunmachan-navi.pref.gunma.jp/en/>